いわき民報
發行所
社長　已克輝
編輯兼印刷人　千倉書房
發行人　印刷人
平市田町四四八番地　電話一七大一番
一部五十錢　一月一円五十錢　一月一円（但月曜を除く）　定價

實に一千万圓を突破
鑛業會管内で四千萬圓以上

水害の鑛炭

東北地方商工局で調査した去る九月の水害による炭鑛の被害は神奈川鑛の百五十七萬四千円を筆頭に以下常磐の百五十五萬七千円犬日本勿來の百四十三萬円、矢郷八十六萬円等の順でその他を合しての總被害高は實に一千二百十七萬五千円に達している、これが復舊には來月中旬までではかゝる見込で、復舊に要する資材だけでも左の如く莫大な數字を示しているが、更に東部石炭鑛業會として管内總被害をみると落ち込れ四千萬円を突破するという

坑木六、〇六七石、一、六四七、〇〇〇円、木材一、一九二石、五六六、〇〇〇円、鐵鋼七四、六五〇キロ六六五、〇〇〇円、クギ二四三〇キロ、四一、四六二円、セメント七四五、五〇〇キロ　一、三〇八、〇〇〇円、工賃五、九四五、〇〇〇円、ポンプ修理動力費一、七〇一、〇〇〇円、その他三〇〇、〇〇〇円

一日鑛全炭完全に對立
縣炭協問題遂に結論を得ず

縣炭協では二十日午前十時から平市公會堂で日本間に懇談會を開き各炭鑛勞組長六十余名が出席、炭協事務局長大森益雄氏が議長となつて、炭全協分裂に伴つての縣炭協の存續か解散かについて懇談を遂げたが、日鑛側は分裂した以上解散するが至當であり、存續は意味をなさぬ强いて置くならたゞ單なる連絡機關たらしめることであると唱へ、これに對し全炭側は十月鬪爭を前に解散することは勞働者側の敗北を招くことである、あくまで存續せしむべきだと主張し、正面衝突の感できまとまらず、結局近く再度の懇談會を開いて決定することゝし午後二時散會した

炭鑛文化祭
出場鑛決る

日豐福島有望か

常磐地區炭鑛勞務者文化祭は地區決勝大會は九地區の優選ベスのもの選で十九日午前九時から内郷幾野記念館並に湯本自治會館に開催した入賞鑛は左の通りである、なお決勝大會は二十六日湯本自治會館に

◇一級　植田倉庫内田寛（二二）◇三級　平商草野利男（一七）同菊地元（一九）赤井丸運渡邊利作（二一）平女河村靜子（一九）平勤銀菊地弘見（一七）小名浜高女中村幸子（一七）

隣保館にも
運營委員會

平市社會課では、P、T、Aは小學校だけに限らぬ、隣保館にも設けて更に一層おろそかになり勝ちな育兒に万全を期すことに決て目下立案中だが、運營は小學校と同じ方式をとる

ガス爆發
一重輕傷十三名

二十日午後四時五十分頃常磐炭鑛磐崎鑛本坑（倉長倉坑）北進坑の坑口から三百九十米許つた上り本線引立付近でガスが爆發即死八名（未收容二名含む）重輕傷者十三名の犧牲者を出した、負傷者は即時炭鑛病院に收容手當中だが原因等は炭鑛當局、平署、商工局出張所等で調査中だが詳細不明なお即死者氏名は左の通り

磐崎村大字湯長谷採掘工手谷内勇（三四）同舖手佐野榮之助（二三）同稻山昇（二九）同伊藤鶴松（三三）同後藤昌次郎（三三）同運搬補手佐藤陸巳（二九）同古屋常隆（二九）湯本町笠井採掘工手大沼勝平（四四）

炭協婦人部
幹事會

要求決議等を

豚炭協婦人部協議會は差別待遇その他縣炭協、鑛業連盟及び鑛業會等へ手交する要求書決議文等の作成並に役員達住所等で調査中だが詳細不明なお即死者氏名は左の通り

園樂
離山者激減の一途
勞務者は戰前の最高を突破

東部石炭鑛業會調査にかゝる八月中の管内各炭鑛勞務者の離山者は八百十一人という炭鑛はじまつて以來の少さを示した、全勞務者との對比は僅かに二%である、終戰後一番離山の多かつたのは二十年九月の六千七百二十名で、以來毎月勞務者の五%から七%を示していたが最近加配米の確保や賃金も割合よくかつ住宅問題も着々解決されつゝあつて、炭鑛は住

こゝいとこの樂園
ヤマは良くはたらく者の

米とイモの供出割當
米八萬七百石、イモ十七萬貫

都食糧調整委員會では米とサツマイモの供出割當が決定されたので、二十四日午前十時から平市食糧に委員會を開き町村割當の決定をする、米の割當は八万七百石で前年度より四三%の二萬千八百五十石の增加、サツマは四十七萬貫で前年より二〇%の十萬七千貫の增加となつている

赤井木工場
昨夜全燒

損害九十一万円

二十日夜七時五十分頃赤井村字大根内常磐炭鑛增産助成會赤井木工場内炊事場煙突附近より四三%の二萬千八百五十石の增加、サツマは四十七萬貫で前年より二〇%の十萬七千貫の增加となつている

言すきわいわ
◇いつも馬鹿をみるのが大衆―日本政治はいつものことながら心寒い
◇菊も咲く、木の葉も色づく、だが林間に酒を溫める余裕はこゝなく、生きることだけに追れおる始末
◇昭和の代が生み出したのは浮浪兒と別嬪犯だけとはネ

小名濱財産
處分委員會

小名濱町有財産處分委員會は二十日開き、前回の委員會で處分に決定をみた住宅二棟と工場を全燒（百四十坪）及木材機械類を燒いた

バター
配給

市では二十四日からマーガリンバターを配給する、數量その他は未定

織維製品の
違反六七店

平署の取締り

平署では去る十五日市内一せいに織維品店舗を急襲、織維製品の違反取締りを行つた結果、絹物九件（九店）綿物一件（一店）其の他三七件（三七店）計六七店舗の違反業者を檢擧に上げたがその收穫は左の通り

原糸（八八、一五ポンド）織物廣幅絹物（一二ヤール）同綿物（三五ヤール）織製品（五三四點）絹（六三七點）綿（六五五點）

造製球電燭各
用輛車・用山鑛
用明照・用般船
コクサイランプ
提供責任品・定檢級
社會式株球電國際
平市新川町八
TEL 3 1 8・2 8 7

食糧增産の先覺者
澤村勝爲と三森治右衛門
―草野村役場三森氏の資料による―
7
鈴木光四郎

三森家累代覺書拔抄（1）

中祖光高以來祖父光貞磐城磐前兩郡は一体に水利に乏しくこれがため毎年六、七月の日照に相成れば稻苗は半ば枯れ果て殊に大旱魃の節は田面龜裂稻穗の收穫皆無のこと度々有之誠に慨かはしき有樣なるより光高鎌出へ移轉後何とかして夏井川の水の落し大溝をつくりて之に灌がんものと其の水源を探ね或は下流の地勢測量なされ度々郡内の重立ちたる人々と評議を盡さると雖何分費用の莫大にかゝる義なれば中々容易に着手し得ず、殊に文龜永正亂後尙諸所の豪族勝手に割據してその雄を競い戰爭絶へて止む時なく農民は時に徵發せられ享祿天文に至り一層戰爭甚だしく徵發は日々に增加し農民塗炭の苦をなめり。（慶長十年三森光敏記）

光貞は當地方移轉以來光高等の御遺志を繼がせられ夏井川の水源及びその下の地勢排水の數々工風等暇さへあれば自ら間竿を杖き田畑山林のきらいなく御丈量相成り地圖も數々出來候も當時は豐臣氏との隙を生ぜられし折にて御領主も常に留守勝にて如何ともする能はざりしとの事なり。而して光貞は部下の者を大勢引連れられて山林を培養し木苗を植へ荒野を拓かれ而して池を堀り旱大に備へ給う等精勵なされ候。我等今の田畑山林數あるは皆御先祖の賜なり。（光隆記）

光義は先代と異り幼少の時より文武の道のみ嗜まれ專ら兵書を講じ農事を勤められず家事は家族に任せ何事にも毛色の異りたる方なりし由、慶長半ばの頃より上京を好まれしも許されず元和元年光隆生れ三月愈々兵法修行として國元を出發されし由、時に二十九才なり。名を變へ京都より直に大阪籠城に飛込まれたりと母が鳥居公の御家中の侍に聞けば光義は京都祇園の邊に在りて侍及び浪士に兵法を教授して存命せりと。依つて一度光義にたどり逢はんと明暦元年後は御普請も暇なれば京都への墓參願濟の上、萬治二年三月磐城平を出發し同月二十二日目に京都に着し兵法のし範たるものを尋ねけれど兵法のし多く尋ねて求むるに由なく殆んど當惑し祇園の社に詣で一心に神に祈りたる處祇園の横手に茅屋の一軒家尋ね當り奥州磐城平より上洛せしと理由を通ぢたるにしばらくして人違いなるべしと云へり。落膽したけれども去る事能はず父の樣子など思いやられ細々と光隆述べ立てければ暫くして父の骨かくの如き白髮なる髯髯の人出て來りたり。眼光鋭く頰骨突起し氣字高く殆んど近よるべからず篤と光隆の話を聞きよく見詰めて、よし上れとの言葉なりし、而して父は一間に去り若侍出で來りてがいを呉れ申し候因つて座につき始めて名乘り合いし時の嬉しさと云うものその夜は嬉しくて四方八方の物語して國元も祖父出精して田畑山林も數多くなり倅光豐も成長して武士格となり小川渠を堀り更に磐前郡の灌田を企て等の話をなし夜を明し申候。一夕光義訓誨して曰く凡そ天下の事は死を決して爲さゞれば何事も成就するものに非ず汝苟も事に當らば宜しく死を決すべしと。其の他後事をたくせられ且つ言つて曰く我已に豐臣氏に心を寄せたり。不幸今や豐臣氏は亡びたり又何爲れぞ德川の粟を食まんやと、ほろりと落涙されて語られず又携る祖父の位牌に手を差し出され謹んで床の間に備へ小侍をして神酒榊等を供へしめ頓首再拜し不孝を謝せられたり。同時に金子五拾兩を捧げたるも更に顧る處なかりし。而して箇を開き兵書のうち二卷千字文一卷大學一卷中庸一卷論語四卷を與へ宜しく光豐へ敎うべしと。おること三ケ月にして涙を振つて去る。幾度か祇園の邊を顧みて去る能はざりし父は時に六十四才光隆は三十六才なりし。

ここにも住宅難反映
意外ヤマの志願者が皆無の狀態

市公共職業安定所では去る十五六の兩日にわたり、求職面の開拓のため平驛前湯本、内郷、小名濱、植田の五ケ所に臨時相談所を設けて斡旋に努めたが、その結果は求職申込者は本所併せ百十七名に達した、うち男が八十五名、女三十二名の振合で、年齢二十歳未滿が十六名、三十歳未滿が四十九名、四十歳未滿二十五名、四十才以上二十七名の割で、希望職業は女子は若いものは事務員、タイピスト見習、中年は炊事婦等で男は事務員や輕勞働で、ヤマの志願者は意外に少かつた、大部分は復員者や引揚者で又ほとんど全部が通勤より住み込みを希望していることは、住宅難の現社會情勢を雄べんにもの語つている、各地の申込み數をみると次の通りだが意外の好成績に今後も隨時各地に開設、一層の拍車をかけることゝなつた（カツコ内は女子）

◆本所一二（五）◆平驛前九（六）◆湯本二名（一〇）◆小名濱一四（一）◆内郷一八（五）◆植田二〇（五）

時臨職求 相談にみる

勿來青年會が 舞見へ地害水 で營經店賣

勿來町關田青年會では去る十七日小學校の運動會を好機に賣店を營み千円を得たので、關東及び東北の兩水害地に五百円ずつ義捐金として贈くることゝし、胡口龍三郎會長を代表として本社を通じ寄託した、なお同青年會の活動振り他の青年會の範とされており、今月も最初義捐金を青年會の名により募るとの議もあつたがそれよりもお互會員が何等かの努力により生み出そうと賣店を開くに至つたものである

入選作品三十二點

市商工會議所等の主催にかゝる青少年創意工夫展は十八日から三日間平第三校で開いたが出品百四十五點中入選は三十二點で、これら入選作品は縣綜合審査會に提出される

土地・家賣買斡旋
龜田屋商會
平市三丁目

湯本舊舍移轉決る
三十坪を一口に土地は競賣

湯本町では二十日午後一時から役場會議室で舊校舍移轉問題に關する公聽會を開いた結果二、三名の反對者もあつたが土地建物移轉の件は決定を見、賣却が至當であると三十坪を一口に競賣拂下げすることになつたが湯本町に土地住宅を有する者は入札權がない

新謠會素謠會

平の新謠會では二十三日午後六時から五十嵐雄二會長宅で素謠會を開く、同會同好者で結成したもので會員は約五十名とある

兩陛下の寫眞下賜

平社會事業助成會では昨年十二月來天皇、皇后兩陛下の御寫眞下賜の申請中のところ、この程下賜せらるゝ旨の通達に接した

新制中學制服配給

市内新制中學の男女生制服が三十着配當となつたので市では抽籤で配給する、値段は男四百八十七円六十錢、女百十一円二十錢

視力試驗設備が有ります
眼鏡
專門
亂視眼鏡
各眼科醫指定
玉屋
平市二丁目
電話九一〇番

の街座銀
家庭醫藥品の御用は――
ア
阿コウ
康
へ
平市田町
電44番

骨董 貴金屬 寶石 和洋服
高價買入れ
◇和洋服特に若向高價御報參上
平市南町平館西隣
中央會館
電話九一五

レントゲン科
内科
平市一丁目四九
谷口醫院
谷口孝雄